

平成24年度 知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会

第2回 関係者会議 平成24年10月23日(火) 世界遺産センター レクチャールーム

発言者	発言内容
○ 開会・挨拶	
環境省	釧路自然環境事務所 中山 次長
○ 議題	
	本日の議題について説明（環境省）
	1.今年度の事業実施報告 1) 海鳥生息状況調査結果報告 2) 利用動向調査中間報告 3) 海域状況観察記録実施報告 4) ケイマフリデコイ活用事業報告 5) 動画コンテンツの作成 2.事業3年間の振り返り 1) 取組実施状況 評価及び今後の課題 2) 課題整理および次年度以降の実施体制について 3.その他 意見交換
1.今年度の事業実施報告	
	1-1.海鳥生息状況調査結果報告
福田委員	・調査結果概要について、資料4にて説明 ○要旨 ・今年度のケイマフリの確認数は最大で140羽だった。これまでの生息数にほぼ回復したと思われる。営巣数は40巣を確認した。最も多かったのはプユニ岬で20巣、次に五湖の断崖の下で6巣、デコイの設置箇所付近のトークシモイでは1巣のみだった。食性調査の結果は、88%がイカナゴでそれ以外はギンボ・カジカ・スケソウダラであった。 ・他の海鳥については全体的に数が少なかった。ハシボソミズナギドリ、ミツユビカモメの数も少なかった。 ・海洋ほ乳類に関しては、6～9月にかけてイシイルカは見られたもののその後見る事がなくなった。 ・海鳥とイシイルカの数が少ない原因としては海水温の高さが考えられる。主な餌となるイカナゴは低水温でしか生きられず、海水温と海鳥の個体数は関連があると思われる。
小城委員	ケイマフリの個体数が増えてきたことは嬉しい事。観光船の方々の努力によるものでしょう。
小型船	あまり実感は無いが、気を付けるようにしているので結果に表れているのであれば良かったと思う。
敷田座長	今まで情報交換出来る場がなかったが、今は協力して自主的にやって頂いている。今後も是非続けて欲しい。
中川委員	ケイマフリの営巣している辺りは第四紀溶岩の断崖で、それより先の方は第三紀で地質的に古い。そういうところではケイマフリは繁殖しない。
敷田座長	そういう説明内容が伝わるといいですね。すごい偶然の場所でしか生息できないものがあるんだというお話が出来ればいいと思う。
敷田座長	イルカ・クジラ類というのはお客さんに対してアピールできる観光資源になりえますか？
小型船	目撃率も上がってきているので観光資源になると思います。陸と海の動物両方が見られるというのは、かなり魅力的だろうと思う。
	1-2.利用動向調査中間報告
環境省	利用動向調査結果中間報告について、パワーポイントおよび資料1にて説明 ・アンケートの配布総数が昨年多かったため今年は半数にした。回収率大型船約30%、小型船・シーカヤック20～25%で予想にほぼ即しており、十分な傾向比較が出来ると思われる。
	1-3.海域状況観察記録実施報告
環境省	海域状況観察記録について、パワーポイントにて説明 ・今年度も6月～7月に「おーら号」にて実施された。 ・観察記録データの活用例として、環境省にてGISによるケイマフリ記録メッシュ解析を行った。
	1-4.ケイマフリデコイ活用事業報告
環境省	ケイマフリデコイ活用事業について、パワーポイントにて説明 ・ウトロ地区の宿泊業者へケイマフリデコイ及びパンフレットの貸し出し、展示協力を頂き地域の取り組みをPR

発言者	発言内容
	1-5.動画コンテンツの作成
環境省	動画コンテンツの作成について、パワーポイントおよび資料2にて説明 ・ケイマフリ動画7タイトル(デモ版)を作成
寺崎委員	この短い期間でここにいるメンバーが現場に行ってデータを取られたり、あるいは宿泊事業者に興味を示して頂いたり、Youtubeで漁協さんも協力されているという話が出ていましたが、こういったことは割と難しい。日本中であまり例が無いことが短期間で出来たというのは率直に喜びたい。
敷田座長	GISのデータは皆さんが記録したデータが、色々な方が見ても実感出来るような形に変換されている。船内でもお客さんに紹介出来ないか？見栄えも良いし解りやすくて良いだろう。
大型船	現在も船内放送でビデオを流してますから、合間に動画を流してお客さんに見て頂くということは可能だと思う。
小型船	可能だと思います。どの辺りが一番見られているかなど、資料的なものも配布出来ると思う。
敷田座長	インターネットを見てこられる利用者にはYoutubeの動画を案内することが出来る。事前に動画を見た場合の楽しみ具合は上がると思うので、そういう工夫を来年度以降連携して実施して頂きたい。
寺崎委員	海鳥を守るためにこれだけの人間が一生懸命やっていて、価値のあるものだということが伝わると喜びも大きくなる。単に対象を見るだけではなく、背景にある物語まで一緒に見せられると、対象生物の価値というものは上がるだろう。
敷田座長	おそらく小型船のほうが情報提供が進んでいると思いますので、大型船でもお客さんとのやりとりがもっとあると良いのではないのでしょうか？その物語というかストーリーを説明できればお客さんの反応は随分違うと思う。
福田委員	根室市ではパードウォッチングの街にしたいということで観光協会が力を入れています。ここではエトピリカを資源だと考えてる。上手い連携プランを考えることができれば、お互いに相乗効果があって経済効果も期待できるのではないかと。
敷田座長	菅原会長、こういう話を福田さんと事務局の方でして頂いて連携して紹介するような事をぜひ検討をお願いします。また、これは「おーら号」さんなど全体の利益にもなると思います。
敷田座長	動画(Youtube)については完成版が出来たら是非活用してください。
2.事業3年間の振り返り ※3.その他(意見交換)	
	2-1.取組実施状況 評価および今後の課題
環境省	取組実施状況 評価および今後の課題について、パワーポイントにて説明 ・自然観光資源の価値の向上 ・利用機会の拡大 ・各種海域利用者間の調整 ・広報普及啓発
	・ケイマフリデコイについて
ウトロ漁協	私どもの立場としては出来る範囲で協力出来ることは協力する、というところ。空いている時は依頼して頂いて結構です。お金を払えとか、そういうことは言いませんので。
小型船	デコイはもう少し先の知床五湖の手前あたりに設置してもらえれば説明しやすいと思う。
敷田座長	先程大型船では小さいから見えないというお話があったように、繁殖地ではない所に模型があって、それを説明用に位置付けるというのは選択の余地があると思う。
中川委員	私も街中ならそういう物も良いと思いますが、実際の繁殖地の海ではやめた方がいい。
寺崎委員	ケイマフリ自体が好きで見たいという人は限られるのだけれども、その裏にあるプロジェクト全体が価値を作るという点を上手く伝えられたらいい。
小城委員	先程のYoutubeの動画の中でケイマフリが水中を泳いでいるシーンが無いので、是非その姿をみたいと思いますが、やはりそれは飼育下のものを撮るしかないでしょうか？元来沿岸性の鳥というのは飼育するのに非常に難しいものですが、ケイマフリの飼育について委員の1人の意見としてご記録願いたいと思う。
	・利用動向調査について
寺崎委員	今回規模を小さくしても前回と変わらない結果となっていることは重要。アンケートの内容がちょっとプロモーション的なことが中心だったが、生態的な面でのモニタリングというのも非常に強調されてきた。アンケートの内容・規模も含めて利用者の意識・感想もずっと聞いていくことが持続的な保護活動にも繋がると思う。
敷田座長	何年も続けるのであれば管理コストも小さく出来るのでお考え頂けたらと思う。毎年やらなくても2年に1度という手もあるだろう。特に私が非常にいいなと思っているのが、このコメント欄の内容で、ひどいことを書かれるケースもある反面、ここを直した方がいいというも幾つか拾えるので、皆さんにもお考え頂ければと思う。

発言者	発言内容
	2-2.課題整理および次年度以降の実施体制について
環境省	課題整理および次年度以降の実施体制について、パワーポイントおよび資料4にて説明 1. 3カ年事業の総括 2. 平成25年度の重点事項 1) ケイマフリデコイを活用した航路設定 2) 観光船からの海鳥等観察記録 3) ケイマフリPR活動 3. 平成25年度のウトロ海域部会の体制
福田委員	海鳥調査を15年くらいやっているが、調査結果はまだ活用して頂けていないと感じている。調査をやりながら結果をすぐに皆さんへ情報提供して、常に活かしていけるような体制を作るのが大事だろう。
敷田座長	小型船協議会の方でこういう会議を開催していく事を、今後前向きにお考え頂けないでしょうか？
小型船	それは全然問題ないです。持続していくことが大事ですよ。
敷田座長	斜里町の岡田さん、具体的な成果が上がっていますけれど町が予算要求しませんか？
斜里町	今回は環境省が全面的にバックアップ頂いて、資源の保護と活用の両立を民間の方々も含めて目指すという枠組みが出来てきたところだと思う。今後規模はどうあれ、どうやって繋いでいくかということだと思う。
敷田座長	海鳥の観察などはデータが抜けるとどうしようもなくなる。町には知床財団もお持ちですので、色々な可能性があると思う。資源を利用すればするほど環境保全が出来てしまうという『新しい形の環境保全』の仕組みなので、町としての説明も出来ると思う。
福田委員	例えばこういうことに関して、企業が協賛してバックアップしてくれる体制とか考えられないでしょうか？
環境省	持ち寄り方式とよく言われますが、持っているものをそれぞれ出していくとお金をあまりかけずに色々なことが出来る。環境省も今後予算の継続というものが難しいが、少しずつ良くしていけたらと思う。
敷田座長	事業が終わってから担当者の関心が薄れるのを防ぐことが重要である。
中川委員	平成25年度からどう受け継ぐかが重要。ケイマフリの生息状況を維持、あるいはもっと回復するのか？また元に戻らないように、そういうモニタリングは非常に重要だと思う。
敷田座長	来年度が勝負になる。こういう場の維持は地元関係者の熱心な努力がなければ長続きしない。是非小型船協議会も積極的に関わって頂ければと思う。
シーヤック	ただそれを議論するのも聞き役、世話役的な所が必要になってくるので、それは環境省さんにやってもらえるということで良いか？
環境省	聞き手的な役割は担えると思う。
○ 閉会	
環境省	釧路自然環境事務所 中山 次長